

事務事業名	埋蔵文化財保存活用事業		所属部局	教育委員会	単位番号	12425				
	<input type="checkbox"/> 実施計画事業		所属課室	文化財課	課長名	有泉 久				
			所属担当	文化財担当	担当者名	保阪 太一				
基本政策	V	個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
政策	25	文化づくりの推進	事業区分	01	一般	10	04	05	030	04
施策	39	歴史・伝統文化の振興		<input type="checkbox"/> 国の制度による義務的事業	<input type="checkbox"/> 施設等維持管理事業					
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 17 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)	法令根拠		<input type="checkbox"/> 県の制度による義務的事業		<input type="checkbox"/> 補助金交付事業				
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載		事業費の主な内訳 (25年度 決算見込)							
	埋蔵文化財の適正な保護を図るため、市民に埋蔵文化財の存在を周知し文化財保護意識を醸成するために行う事業。		項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)				
	史跡めぐりの実施や遺跡情報発信板の設置、遺跡めぐり用ガイドマップ、ブックの作成や縄文体験教室等の開催等多角的に事業展開を行う。		作業員等賃金	168	印刷製本費等	1,187				
			報償金	10	その他の委託料	939				
			講師謝金	206						
			費用弁償	74						
			消耗品	255	計	2,839				

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	25年度活動実績	縄文体験教室、講座の実施、遺跡情報発信板の設置、埋蔵文化財ガイドマップの作成、埋蔵文化財情報発信ソフト開発委託の実施、史跡めぐりの実施や遺跡情報発信板の設置、遺跡めぐり用ガイドマップ、ブックの作成や縄文体験教室等の開催等多角的に事業展開を行う。
	26年度活動予定	縄文体験教室、講座、遺跡情報発信板の充実、埋蔵文化財ガイドマップの作成、埋蔵文化財情報発信ARシステムの充実、埋文キャラの着
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	市民一般 小中学生	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	市民や子どもたちが地域の歴史や成り立ちを知り、ふるさと意識や郷土愛を持つことが出来る。先人の残した知恵や文化を大切に思い、これを次代に守り伝えていこうと思う気持ちを育む。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	歴史的・文化的背景を尊重したまちづくりが行われる 歴史的的文化遺産をよりよい形で次代への継承が行なわれる	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	アイイベントの開催数	件
	イ刊行(改訂)したパンフレットや案内板の数	件
	ウ	
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア人口	人
	イ小中学校生徒数	人
	ウ	
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	アイイベントの参加者数	人
	イ	
	ウ	
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア文化財・伝統芸能の保護や継承の市民の満足度	%
	イ地域の文化財を守り伝え活用している自主的団体(NPO)の数	件

(2) 事業費・指標の推移

年間トータルコスト	事業費	財源内訳	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	最終年度
				(決算・実績)	(決算・実績)	(決算見込・実績)	(予算・目標)	(計画・目標)	(計画・目標)	
事業費	内訳	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円	1,425	1,340	1,340	1,360	1,410		
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	1,613	1,525	1,499	1,542	1,590		
		事業費計(A)	千円	3,038	2,865	2,839	2,902	3,000	0	0
人件費	コスト	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2		
		延べ業務時間	時間	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400		
		人件費計(B)	千円	6,371	6,371	6,371	6,371	6,371	0	0
		(A)+(B)	千円	9,409	9,236	9,210	9,273	9,371	0	0
活動指標	ア	件		9.0	6.0	6.0	6.0	6.0		
		イ	件	4.0	2.0	2.0	2.0	2.0		
対象指標	ア	人		72,000.0	72,000.0	72,000.0	72,000.0	72,000.0		
		イ	人	7,100.0	7,100.0	7,100.0	7,100.0	7,100.0		
成果指標	ア	人		374.0	600.0	600.0	600.0	600.0		
		イ								
上位成果指標	ア	%		38.0	38.0	39.0	40.0	40.0		
		イ	件							

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	合併以前から文化財保護法第95条に対応する事業として旧町村で実施。平成17年度より新設国庫補助事業により拡充し、現在は「史跡等及び埋蔵文化財公開活用補助事業」として実施している。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	マップや体験型の教材などによりある程度のソフト、ハードが整備できたが、埋蔵文化財の調査結果は年々蓄積されており常に新作や改善が必要となる。また、電子情報の整備の必要性も感じる。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	親しみやすいマップなどで紹介することにより、「埋蔵文化財を通して地域に愛着を持つことができた」などの声が寄せられより幅広い要望が寄せられている。また、調査が終了した遺跡の説明板設置の要望がある

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	<input checked="" type="checkbox"/> 取り組みしている ⇒【内容!】 <input type="checkbox"/> 取り組みしていない ⇒【理由!】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	担当者による手作りなどで最小限の経費に抑え、新たな成果を盛り込んだ改訂および増刷を行っている。担当者の人件費を抑えるため部分的にNPOや地域のボランティアと連携し取り組んでいる。教員の研究会にも出席し市民・学校のニーズに合わせて教材作りをおこなっている。
③ H 25年度に実施した改革改善の内容	全ての印刷物は業者に委託せず担当者による編集・作成して最小限の経費に抑えた。担当者の人件費を抑えるため部分的にNPOや地域のボランティアと連携し取り組んだ。

事務事業名	埋蔵文化財保存活用事業	所属部	教育委員会	所属課	文化財課
-------	-------------	-----	-------	-----	------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由↓】 地域住民や子どもたちが地域の歴史や成り立ちを知り、ふるさと意識や郷土愛を醸成することができる。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由↓】 埋蔵文化財の周知は文化財保護法で謳われている義務であるとともに、公費を投入して行われた調査成果の市民への還元行為であるので、まず市で行うべきものである。ただし、体験学習の運用の面では民間団体等と連携を図っている。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 <input type="checkbox"/> 民間・NPO <input type="checkbox"/> 市民協働
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由↓】 南アルプス市の埋蔵文化財については市民共有の財産であるので、広く市民を対象とすることは妥当であり、また、調査成果の蓄積により常に情報も更新されているため広く周知する必要がある。さらに、市民が情報を得る手段も年々変化しており、それらに対応する必要もあるため継続する必要がある。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	<input type="checkbox"/> かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由↓】 埋蔵文化財を活用してゆく上での民間団体などを含めた体制づくりによりソフト面の充実が図れる
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統廃合や連携を図ることはできるか？	<input type="checkbox"/> 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) <input type="checkbox"/> 統廃合ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合ができない ⇒【理由↓】 <input checked="" type="checkbox"/> 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	<input type="checkbox"/> 影響なし <input type="checkbox"/> 休止・廃止ができる <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 地域住民や子どもたちが地域の歴史や成り立ちを知り、ふるさと意識や郷土愛を醸成する機会を失う。 地域住民や子どもたちが地域の歴史や成り立ちを知り、ふるさと意識や郷土愛を醸成する機会を失う。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 事業費のほとんどがソフトやガイドマップなど教材の作成に伴うものであり、その削減は活動量に直結する。また、ガイドブックなど教材の作成は最低限のコストで作成できるよう職員の手作りによるDTPを導入している。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 教材作成には職員による手作りなどで外注コストを削減しているためこれ以上は不可能。しかし体験学習の運用に関してはボランティアなどを育成することは可能で、実際に試行している。なお、ボランティアの育成は他の部署との連携を図ることにより一部署の負担を軽減することもできる。現状ででき得る限りの工夫をしているのでこれ以上の削減は不可能。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由↓】 市民、市内小中学校全てに広く埋蔵文化財の周知、活用を呼びかけており、公平といえる。また、地域や各学校からの要望、要請には基本的に全て応えるよう心がけている。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	徐々に浸透し始めており、学校や一般市民からのニーズも増加している事業である。しかし市民への浸透が十分ではない現状において、埋蔵文化財の活用事業の活動量を削減することは難しい。学校や市民からの要望が増す中で、限られた人材ではこれ以上は難しいレベルまで対応しているといえる。しかし、費用をかせぎ工夫して精力的に取り組んでおり、その様子は全国的にも取り上げられるなど、継続して取り組むべきものといえる。地域の埋蔵文化財の「保護」と「活用」という両輪をバランス良く進めるため、更なる工夫が必要と考える。
② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
<input type="checkbox"/> 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携(有効性⑤の結果) <input type="checkbox"/> 公平性改善(公平性⑨の結果) <input type="checkbox"/> 休止(目的妥当性①、②、③の結果) <input type="checkbox"/> 成果向上(有効性④の結果) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(全評価項目で適切) <input type="checkbox"/> 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) <input type="checkbox"/> コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table> <p>※ 廃止・休止の場合は記入不要</p>			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	維持	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	低下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
	維持	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
	低下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
(2) 改革改善案について 地域で埋蔵文化財を活用できる文化財サポーター的なボランティアの育成について検討し、一部実施している。観光部局、広報部局との連携により周知を図ることや、生涯学習課、文化協会、地域コミュニティなどの組織と連携を強化する。																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 主体的に動くことのできる団体(個人)等の育成	(5) 事務事業優先度評価結果 平成25年度																					
	成果優先度評価結果 ②																					
	コスト削減優先度評価結果 ⑪																					